



次期学習指導要領に向けて

出典：「令和7年7月4日 中央教育審議会 教育課程企画特別部会資料1」

豊かな学びにつながる学習評価

ー評価の頻度やタイミングー

- 学習評価を真に子供の学習等の改善につなげていくためには、「学習改善に生かす評価」（適時のタイミングでのアセスメントとフィードバック）の充実が必要
- 一方、評価活動の中で「記録に残す評価」が大半を占め、評定を学期ごとに示す学校が多い中、「学習改善等に生かす評価」を充実させることは負担大



<基本的な方向性>

- ① 評定への総括は課程の修了認定を行う学年末にのみ行うことが可能であることを明確に示しつつ、その場合には学期中は「学習改善等に生かす評価」を中心に行うことを促すなど、評価の役割分担を明確化することについて要考察
- ② ①の方策は、ある単元・学期でうまく学べなかった子供でも、その後の学習により挽回の機会を提供できることや、「裁量的な時間」の活用による一人一人に応じた学習活動の拡充とも親和的

<想定される課題>

- ・ 学期途中に評定がないと学習の進捗が分かりにくい。
- ・ 各学期の「学習改善等に生かす評価」のフィードバックの方法がイメージしにくい。
- ・ 高校入試との関係上、中学校3年生は2学期までの評定が必要。
- ・ 各単元の「記録に残す評価」の精選の具体的なイメージがわきにくい。
- ・ 特定の時点でうまく学べなかった子供がその後の学習で顕著に資質・能力を発揮した場合の評価上の対応について、過度な負担なく行う方法がイメージしにくい。

物事を好きになることが上達の近道

これ^{これ}を知る者は、之^{この}を好む者^しに如かず。之^{これ}を好む者は、之^しを楽しむ者に如かず。

（訳）あることを知っているだけの人は、それを好きになった人には及ばない。
それを好きになった人も、それを楽しむ人には及ばない。

出典：「壁を乗り越える論語塾」安岡定子著（PHP研究所）